

阿波十郎兵衛屋敷の文化・観光事業

事業名	事業内容
1 阿波人形浄瑠璃の上演(予算額11,000千円)	
(1)定期公演	<p>・特別期間(8月11日～16日) 太夫・三味線付き公演 1日4回</p> <p>・上記以外の期間 土日祝日 太夫・三味線付き公演 1日2回 平日 録音音源を利用した上演 1日2回</p> <p>※演目の概要だけでなく、阿波人形浄瑠璃の特色や発展の経緯、鑑賞のポイントをわかりやすく解説し、上演する。</p>
(2)特別公演・派遣公演	<p>各公演にふさわしいプログラムを作成し、料金を決めて、県観光協会等と連携した積極的な営業活動を行い、特別公演、派遣公演を積極的に実施する。特に、県教育委員会との連携により、遠足や修学旅行、校外学習の誘致に努める。</p> <p>①特別公演 旅行エージェントやグループ旅行などの要請に応じて、十郎兵衛屋敷で行う公演</p> <p>②派遣公演 結婚式や学校の出前授業や入学式、各種会議等のアトラクション、農村舞台などへの派遣公演を通じて、徳島県の人形浄瑠璃の拠点施設としての役割を担う。</p>
(3)特別企画公演の開催	<p>特別企画公演を開催することにより、県内集客と県外客へのサービス充実を図る。</p> <p>①徳島の人形文化紹介 県内各座の特色を紹介する公演を実施する。定期公演ではできない演目の上演や、人形浄瑠璃ワークショップ、セミナーなどで構成。</p> <p>②後継者団体公演 中学、高校、大学等の民芸部による公演。後継者の育成と徳島の人形文化の層の厚さを観客にアピールする。</p>
2 阿波人形浄瑠璃の魅力の創造(予算額1,000千円)	
(1)農村舞台ツアー	<p>春秋の主な農村舞台公演について、県内外の人を対象としたバスツアーを実施する。車内では、阿波人形浄瑠璃と農村舞台の魅力や、農村舞台のある地域の文化資源についての解説を行う。</p>
(2)徳島じょうりクルーズ	<p>新町川を守る会等との連携により、吉野川～阿波藍～阿波人形浄瑠璃という徳島の文化史を楽しくたどるツアーを実施する。</p>
(3)新作・コラボレーション	<p>新作やコラボレーションなどの手法により、人形浄瑠璃の新しい魅力の創造に取り組み、活用を図る。</p>
(4)人形浄瑠璃街道公演	<p>西宮神社のえびすかきをルーツとして、阿波・淡路から全国に広がった人形浄瑠璃の普及発展の経緯をたどり、全国各地の人形文化の紹介に努める。</p>

3 展示業務(予算額500千円)	
(1)調査研究	<ul style="list-style-type: none"> ・県内の人形文化調査(かつて70も活躍していた県内の人形座の資料) ・農村舞台詳細調査(地域の状況、襖絵や絡繰り、舞台道具など)、 ・地域の文化資源調査(食文化、伝統工芸、景観、その他生活文化等)
(2)常設展示の 効果的運営	職員やボランティアガイド等により、展示資料をもとに阿波人形浄瑠璃の特色を解説するほか、体験用の人形を遣いながら人形が生きているように見えるためのポイントを伝えたり、実際に人形を持ってもらい、操作の難しさを実感してもらうなど、公演鑑賞をより充実したものにするとともに、上演していない時間帯に訪れたお客様にも十分満足していただけるよう配慮する。
(3)企画展示コーナー等の積極的な活用	展示室内の企画展示コーナーと母屋の土間の壁面、座敷等を活用して、県内に残る人形浄瑠璃文化の調査研究に基づき、様々な視点から人形浄瑠璃の魅力を掘り下げて捉え展示する。また、人形浄瑠璃と関わりの深い徳島の伝統文化の紹介を行うなど奥行きのある展示事業を展開する。
4 教育普及事業(予算額300千円)	
人形や義太夫節の鑑賞教室、新たな人形座の設立、育成を行うことにより、人形浄瑠璃の中に息づく日本人の感性に触れ、人形浄瑠璃をより深く楽しんでもらう、新たなファンの開拓を図る。	
5 情報の収集と発信(予算額700千円)	
<p>定期公演や各種イベント、農村舞台バスツアーなどの阿波十郎兵衛屋敷の事業への集客はもとより、阿波人形浄瑠璃の振興を図ることを目的とした情報の収集、発信に積極的に取り組む。 (広報媒体)下記の媒体を効果的、効率的に連動させて活用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①施設パンフレット ②インターネット(ホームページ、フェイスブック等) ③人形浄瑠璃情報紙の発行 ④各種メディアの活用(新聞、テレビ、タウン誌等) 	